

【巻頭言】

『福祉社会開発研究』第4号 発刊に寄せて

東洋大学福祉社会開発研究センター長  
古川 孝順



『福祉社会開発研究』第4号をお届けいたします。本報告書の発刊を含め、当センターの研究の柱である二つのプロジェクト「自治体福祉・保健計画と地域における福祉社会の形成」・「中山間地域の振興に関する調査研究—中越地震の被災地・長岡市山古志地区の復興計画の事例に即して—」の日々の活動は、関係各位のご協力、ご指導・ご鞭撻によるものと存じております。この場を借りて、心より感謝申し上げます。

本号では、昨年度に引き続き、東京都墨田区・千葉県八千代市・北海道帯広市（プロジェクト1）、新潟県長岡市山古志地区（プロジェクト2）をフィールドとした実態調査・研究を報告しております。また、東京都民生児童委員連合会との協定による研究成果や新たなフィールドからの報告も含まれています。当センターでは、これらの研究の蓄積を踏まえて、新たな研究課題・実践課題に対応していきたいと考えております。

本年1月、プロジェクト2の研究リーダーである内田雄造教授が逝去されました。当センターの運営はもとより、山古志地区での活動に大変ご尽力いただきました。ここに謹んでご報告させていただきます。

当センターは5年間の事業となっており、今年度は4年目にあたります。当センターが目標とする、人間生活の安全・安心、人格の尊厳と人権の保障を基本的な理念とする、持続可能な福祉社会の開発方法と、その実践過程に関する総合的研究をまとめていく段階にあります。最終年度を迎えるにあたり、これまで積み重ねてきたものを大切に、これまで以上に真摯に取り組んでまいりたいと思います。

皆様の忌憚のないご批判・ご教示をよろしくお願い致します。

